

## テクノバリア TB-1 施工要領書

1. 施工するコンクリート面は、健全な部分が露出するまで劣化したコンクリートを除去する。
2. 鉄筋が発錆している場合には、防錆処理を施す。
3. 施工するコンクリート面にプライマーとしてテックス 7 (150g/m<sup>2</sup>) を均一に塗布または散布する。
4. 均一に練混ぜたテクノバリア TB-1 (練り混ぜ量は下記表を参照) を吹付け、またはコテ塗り施工により所定の厚さに仕上げる。この時必要以上に押えて表面にノロを浮き出させないこと。  
塗り重ねで所定の厚さに仕上げる場合には、塗り重ね面をモルタル塗布直後にクシ目ゴテ等で目粗をし、塗り重ねする。
5. ドライアウトが想定される状況 (夏季、屋外、風通しが良い所) では、ドライアウト防止の為にテックス7を施工直後に散布する。  
原則として当日に所定の厚さに仕上げる。翌日塗り重ねの場合、塗り重ね面をモルタル塗布直後にクシ目ゴテ等で目粗しして、翌日塗り重ね部に再度テックス7を塗布または散布してから塗り重ねする。

1袋当りの標準練り上がり量			1m <sup>3</sup> 当りの標準配合	
テクノバリア TB-1 (kg)	水 (kg)	練り上がり量 (L)	テクノバリア TB-1 (kg)	水 (kg)
25	5.2	約 13.7	1,825 (73袋)	379.6

※練り混ぜ水は、施工時の気温・施工方法等により変化します。

1袋 (25kg) 当たり 5.0～5.5kg の範囲で調整してください。

1回当りの標準施工厚さと 1 m <sup>2</sup> 当りの標準使用量			1袋 (25kg) 当りの施工面積 (m <sup>2</sup> )
1回当りの標準施工厚さ (mm)	粉体、水調合物の標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> )	テクノバリア TB-1 (粉体) 標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> )	
10	22.05	18.25	1.37
20	44.09	36.50	0.68
30	66.14	54.75	0.45
40	88.18	73.00	0.34

※上記の標準使用量には、施工時のロス分は含んでいません。

※1回当りの標準施工厚さ：壁面は 10～40mm、天井は 10～20mm

注) 現場での保管は屋内が理想だが、やむを得ず屋外に保管する場合には雨が直接当たらないようにパレットを引き、ブルーシートを掛けブルーシートが飛散しない様に養生を行う。

<使用上の注意事項>

- 1.製品の取扱いは、セメントに準じて行って下さい。
  - 2.破袋または、開封後、放置した製品は使用しないで下さい。
  - 3.練混ぜ水には、飲料水または上水道水を使用して下さい。
  - 4.製品が皮膚に触れた場合などには、セメントと同様に処置して下さい。
- 注) 取扱いに関する詳細な注意事項は、安全データシート (SDS) をご参照下さい。